

1 学校として目指す授業

「わかる・できる」「考える」授業	ねらいの明確な授業	見通しのもてる授業
------------------	-----------	-----------

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語は「読むこと」「記述式解答」の領域が全国平均正答率を5%以上上回ったが「話すこと聞くこと」「情報の扱い方」の項目では平均より約5%下回った。自らの考えを伝えることに課題が残る。算数は「データの活用」「測定」の領域で約7%下回った。国語と算数に共通して、データや情報の読み取りに課題がある。資料を基に、数値を読み、それらを活用して解決する力を身に付けさせる必要があると分かる。	「自分には、よいところがあるか」93.4%、「先生は、よいところを認めてくれるか」98.3%と、認められることで自己肯定感が高い児童が多い。「各教科で学んだことを生かし、考えをまとめる活動を行った」76%と、記述でまとめる授業が身に付いていると実感している児童も多い。しかし、「学校の授業時間以外の1日当たりの読書時間1時間以上」が16.7%、「土日の1日当たりの勉強時間2時間以上」が23.4%と、学校以外での時間の使い方や学習への向き合い方に課題がみられる。学習を学校でも家庭でも習慣化できるようにしたい。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

④各教科において、「授業の内容が分かる」の質問に肯定的な回答をした児童はどの教科も9割いた。しかし、「各授業において得意か」での肯定的な回答は7割と減少していた。そこで、児童一人一人がより「できた！分かった！」が増える授業の工夫をし、児童の自信につなげたい。インプットをより洗練できるようアウトプットの学習（自分の考えを他の人に説明する）や問題解決の時間を意識して増やしていく。 ⑤どの教科も「授業の内容がわかる」の質問に対して8割以上の児童が肯定的な回答をしている。全体として「考えること」「自分で表現すること」「くり返し取り組むこと」についての設問で肯定的な回答が少ない傾向にある。授業の中で考える時間、伝える時間の確保、振り返る時間を確保していく。 ⑥どの教科も「授業の内容がわかる」の質問に対して8割以上の児童が肯定的な回答をしている。しかし、「各授業において得意か」での肯定的な回答は6割程度と減少していた。授業の中でお互いに認め合う場面を設定し、児童の自信につなげていく。
--

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

(国語) 総合点が市平均に対し7.5点下回っている。領域で見てもどの領域も市平均を下回り、特に言葉・情報・言語文化では8.5点と大きく下回った。基礎基本から定着を図っていく必要がある。 (算数) 総合点が市平均に対して9.4点下回って知識・技能では、市平均に対し9.5点下回っている。思考判断・表現についても9.7点下回っている。基礎・応用共に大きく市平均を下回っている。基本的な技能から定着を図っていく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストでは、本校は持久力に特に課題がある。児童が楽しく活動しながら持久力をはじめとする体力を向上できるよう、体育科では鬼あそびを授業の導入で取り入れたり、休み時間にも取り組める活動をしたりするなどして楽しく持久力を向上できる授業を目指す。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・題意を正確に把握するための、読む力（正しく読み取る力）を付けていくことが必要不可欠である。 ・学習した内容についての定着を図るために、定期的に復習することが必要である。 ・家庭学習の習慣化が必要である。家庭の協力が得られにくい児童についても習慣化させるために、GIGA端末の活用を推進していく。
--

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。 ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。 ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

・基礎基本の定着をベースに、指導のねらいが明確で児童にとって見通しがもてる、意図的・計画的な授業を展開する。 ・教師が教える時間と児童が考える時間を意図的に設定し、ねらいを達成できる授業を展開する。
--

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	言葉の動作化や言い換え等を通して、理解を深める。順序のマークやサイドライン等を活用する。				問題の場面と半具体物を通して、理解してから立式につなげられるよう支援する。				生活の中で感じたことや気づいたことについて、絵や文、動作などの表現を通して実感を伴った理解につなげる。		ゲーム形式の活動を取り入れるなど、児童が楽しんで学習に取り組むよう支援する。		見通しをもって取り組めるように、毎時間黒板に手順やめあて等板書し、完成品を見せたり、手順を確認して一緒に作業したりする。				各種の運動の特性に触れることのできる感覚づくりの運動を音楽に合わせて行う。				道徳的価値について教材提示の工夫をし、考えをもったり話したりする場を設定する。	
中学年	目的や必要に応じて読むことで主体的な学習につなげる。国語辞典を日常的に使い語彙を増やす。		学習問題を自分たちで作り、予想を立てた上で解決を図るようにする。		問題文に線を引かせたり図をかかせたりすることで、問題の場면을想起できるようにする。		学習問題に対して、児童に観察や実験方法を考えさせる。結果をもとに比較することで考察する思考力の向上を図る。				グループ活動を有効的に取り入れ、児童が教え合うことで、協働的に学ぶ姿勢と基礎的な技能の定着を図る。		活動内容やめあてを板書して授業の最初に説明し、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。				意欲を継続できるように、活動時間を確保しながら、学習カードなどでめあてに基づいて振り返りを行う。				教材を基に、道徳的価値について自己の経験を振り返らせ、他者と共有する。各自がこれからの生活で実践しようという目標を持てるようにする。	
高学年	児童が「読みたい」と思うような学習活動を設定し、その活動に沿った手立てを行う。		資料提示や学習展開の工夫により、児童が学習内容を自分事として捉え、主体的に追究していけるようにする。		問題文を数直線図などに表すなどして、問題の意味理解を深める活動を充実させる。		観察の視点について具体的な指導を行う。実験を通し、思考力の向上を図る。				表現領域・鑑賞領域において、音楽を構成する要素に着目させ、児童が作曲者の意図まで考えるよう授業を構成する。		ねらいにそった有効的な学習活動を考える。また、グループ活動を取り入れ、主体的・協働的に学ぶ姿勢を育む。		動画等を活用し、活動を視覚的に捉えやすくすることで安心して活動できるようにする。		個々の目標を明確化させ、その目標を達成するために必要な活動時間と運動量を十分に確保する。		ALTと連携し、発音練習を多く取り入れる等、英語表現に慣れる活動を充実させる。		道徳的価値について自己の経験を基に議論させ、互いの考えを受け止めたうえで、自分の考えや実践意欲が持てるように、発問を工夫する。	